



支援連携だより R4・4号
令和4年 10月 27日
小田原養護学校 支援連携部
題字:高 A2年生徒作品

やっと、厳しい暑さが落ち着いてきましたね。暗くなると、虫の音があちらこちらから聞こえてきて、秋の気配を感じます。さて、今回は、最近のニュースから特集を組みました。

特集

インクルーシブ教育のいま

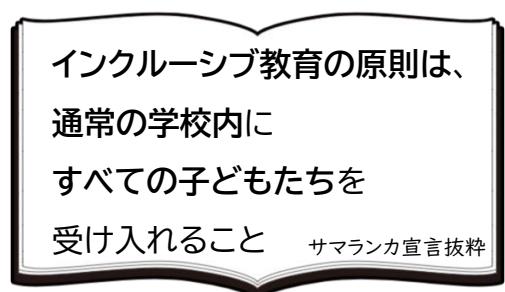
～最近のニュースから



この夏、障害者の権利条約に関連して、国連から日本が受けた勧告がニュースになっていました。



障害のある子どもたちが、特別支援学校や特別支援学級に「分離」されることで、通常の教育を受けにくくなっている



障害のある子どもたちを分離する現状の特別支援教育をやめるべき



この勧告受けて、日本の文部科学省は…

インクルーシブ教育の実現に向けて、次の二つのこと取り組んでいる

障害のある子どもと障害のない子どもが可能な限り共に過ごす条件整備

一人ひとりの教育的ニーズに応じた学びの場の整備



多様な学びの場において行われている特別支援教育を中止する考えはない



日本のインクルーシブ教育は、世界から見ると、まだ充分ではない部分もありますが、少しずつ実現に向けて歩みを進めていることも確かです。



神奈川新聞でも、このニュースに関連した連載記事が掲載されていました。
～8/19～22「共に学ぶ考・国連審査」～

8/19

障害当事者・川端舞さん

「通常学級就学は権利」

▶「能力主義・支援不足…」
が経験した小中学校の
級での教育は果たして、
ルーシンピ教育といえろの

- 8/20
- ダントン症の立畠豪君 母の願い
「助け合える環境こそ」
 - ▶「学力や行動面で周囲と違う場合に厳しいまなざしが向かはれ、通常学級がどんどん窮屈な場になつていいか」

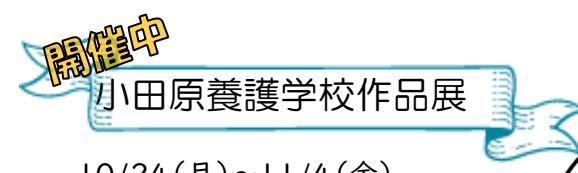
研究者・一木玲子さん
「通常学級の変革必要」

- ▶ 「現状では本人や保護者が通常級を希望した場合にでも、教育行政が拒否をするケースが後を絶たない。制度改革が不十分なためだ」

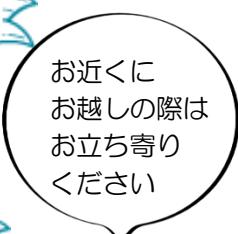
8/22
先進地で学ぶ元教諭・池野絵美さん
カナダ「どの子も歓迎」
▶「BC州のインクルーシブ教育の代表的な定義の一つ
では、歓迎を意味する【Welcome】が使われている」

次号

神奈川県のインクルーシブ教育実現に向けての取り組みを紹介します。



10/24(月)～11/4(金)
おだわら市民交流センターUMEKO



12/5(月)～11/16(金)
湯河原町社会福祉協議会



障害者の権利条約は「私たちのことを、私たち抜きにきめないで」という考えが大切にされています。

だからこそ、その実現のためにたくさんの話し合いが重ねられ、多くの時間がかけられています。

その話し合いは、今も続けられていて、今回のニュースもその一部だと感じます。